名古屋高等教育研究論文タイトル

－論文副タイトル－

（タイトル・副タイトル含め４０字以下）

 東　海　花　子[[1]](#footnote-1)\*

 名古屋　太　郎[[2]](#footnote-2)\*\*

＜要　旨＞

本稿の目的は、･･･。

要旨は400～500字とする。

* 英文要旨（必須）は英文要旨テンプレートをダウンロードのうえ、別途作成。

# 1．はじめに

本稿は、人文・社会科学系の博士前期課程（修士課程）において社会人学生向けに開講した授業の実践内容を扱う。そのねらいは、この授業実践から得られた知見を通して、社会人を対象とする前期課程に特有の課題を明らかにし、その課題をクリアするために専攻・分野レベルでどのような方策が必要かを検討することである。具体的には、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻の高度専門職業人養成コースの一つである「高等教育マネジメント分野」において、筆者が平成19年度前期に開講した「高等教育基礎論（研究方法）」の授業実践の意図と背景、授業プロセス、その成果をとりあげる。

表1　表タイトル

表

出所：筆者作成

図

出所：筆者作成

図1　図タイトル

# 2．本文見出2

## 2.1　本文見出2-1

### 2.1.1　本文見出2-1-1

注

1) 平成17年度に「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に採択された97プログラムに在籍する大学院生のデータから算出すると、平成18年度の前期課程修了者のうちアカデミックポストに就いた者およびそれを志向する者（大学教員や公的研究機関への就職、後期課程への進学の合計）の割合はわずか25.3％である。その一方で、進学も就職もしない者は15.0％に及ぶ（ちなみに人文社会系では36.4％）独立行政法人日本学術振興会編「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会編『「魅力ある大学院教育イニシアティブ＜平成17年度採択教育プログラム＞事後評価結果報告」2007年。

2) 金子元久、2006、「人文社会系大学院の展望」『IDE現代の高等教育』478(2-3): 37。

参考文献

Fischer, Beth A. and Zigmond, Michael J., 2001, “Promoting Responsible Conduct in Research through “Survival Skills” Workshops: Some Mentoring Is Best Done in a Crowd”, *Science and Engineering Ethics*, 7(4): 563-87.

藤垣裕子、2007、「科学技術社会のゆくえ－科学者の社会的責任論の系譜から」『科学』900: 77(8)。

1. \* 尾張大学大学院工学研究科・教授 [↑](#footnote-ref-1)
2. \*\* 三河大学教育開発センター・准教授 [↑](#footnote-ref-2)